

平成25年行政事業レビューシート

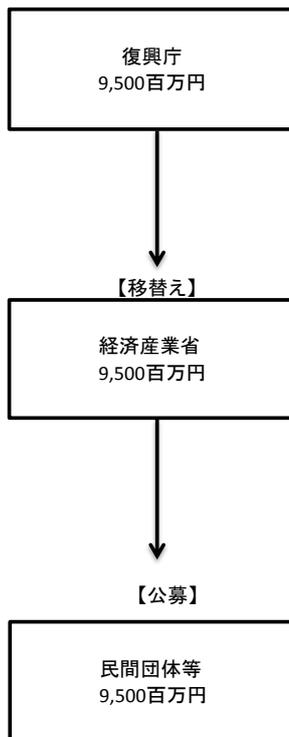
(復興庁)

事業名	浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業(復興関連事業)		担当部局庁	復興庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度・平成27年度		担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 大野 秀敏		
会計区分	東日本大震災復興特別会計		政策・施策名	復興施策の推進 東日本大震災からの復興に係る施策の推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	「東日本大震災からの復興の基本方針」(平成23年7月29日東日本大震災復興対策本部決定) 「復興への提言」(平成23年6月25日東日本大震災復興構想会議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	浮体式洋上風力発電について、世界初となる本格的な実証事業を実施し、技術的な確立を行うとともに、実用化に向けて、安全性・信頼性・経済性を明らかにしようとするもの。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	福島県沖合約20kmの海域に浮体式洋上風力発電設備及び変電所を設置し、実際に発電を行う実証試験を行うとともに、風車、浮体、係留や送電システム等の維持管理手法の確立、環境影響や航行安全性の評価、漁業との共生手法の確立等に関する研究を行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算		(経産省計上)	-	9,500	31,000	
		繰越し等		12,500	-	-		
		計		△ 12,500	12,500	(12,500)		
	執行額		0	0	0	9,500 (12,500)	31,000	
	執行率(%)		0	0.0%	0.0%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	年間稼働率	成果実績	%	-	-	-	35%	
		達成度	%	-	-	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	浮体式風車の基数 2,000KW風車:1基 7,000KW風車:2基		活動実績 (当初見込み)	基	-	-	0	2,000KW風車:1基 7,000KW風車:-
単位当たりコスト	(円/)		算出根拠	世界初となる浮体式洋上風力発電所の商用化を実現するため、本実証事業を通して、当該発電システムの安全性・信頼性・経済性を明らかにすることを目的としており、単位当たりのコストを算出することは難しい。				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	人件費	264	355	研究員人件費の増				
	事業費	8,179	27,214	7MW風車組立、浮体の曳航係留、ケーブルの接続等に係る経費の増				
	再委託費	31	3	水槽実験等の終了による減				
	一般管理費	650	1,971	事業費の拡大に伴う増				
	その他	376	1,457	事業費の拡大に伴う増				
	計	9,500	31,000					

事業所管部局による点検						
	項目	評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	地球温暖化対策、エネルギー安全保障の観点から優先度は高い。本事業は、世界に先駆けた取組であり課題が多く民間にはリスクが高いことから、国が資金を手当し、国内の風車メーカー、造船メーカー、風力発電事業者等がそれぞれの専門性を持ち寄りながら連携し、事業を効率的に進めていくことが必要。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	年に複数回開催される外部有識者による第三者委員会において、事業の必要性、同一事業者による事業継続の妥当性、実施計画の妥当性等事業の必要性、効率性が審査(確認)されている。			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	-				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	年に複数回開催される外部有識者による第三者委員会において、事業の進捗(活動実績)等が報告・確認されている。また、同委員会において事業費の妥当性が確認された上で契約を締結している。			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-				
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					
	事業番号	類似事業名				所管府省・部局名
点検結果	浮体式洋上風力発電は世界初となる本格的な実証実験であり、ハードルが高く(課題が多く)、投資も多大なため民間企業単独での取組は困難であり、国が支援する必要がある。また、事業の執行・管理についても第三者委員会において確認する等適正なプロセスを経ることとなり、効率的かつ有効と認められる。					
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	実施計画の妥当性及び経費内容については、そのつど審査・評価し、必要額を精査しつつ効率的な予算の執行を進めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	実施計画の妥当性及び経費内容については、そのつど審査・評価し、必要額を精査しつつ効率的な予算の執行に努めていく。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年		平成23年		平成24年	
					104-2	

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

【25年度計上分のイメージを記載】



資金の流れ
(資金の受け取り
先が何を行っている
かについて補足
する)(単位:百万
円)